

令和 6 年度 第 3 回浜松市立中郡中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 2024 年 11 月 26 日（火） 14：00～16:00
2. 開催場所 浜松市立中郡中学校 会議室
3. 出席委員 高井 昭、本間 義章、杉本 泉、稲鶴 治夫、村木 富代、川島 博美、河合 洋子
4. 欠席委員 小杉 敬治郎、加藤 大詞
5. オブザーバー 鈴木 裕之（浜松市議会委員）、小池 誠（積志協働センター）
6. 学校支援コーディネーター 梅田 瞳
7. 学校 高橋 基（校長）、川合 公孝（教頭）、鈴木 彰弘（教務主任）、野田 潤子（1 年主任）、袴田 素充（2 年主任）、鈴木 勝治（3 年主任）、川口 哲也（大樹学級主任）、佐藤 彩乃（CSD）
8. 教育委員会 井島 健蔵（教育総務課）
9. 傍聴者 なし
10. 協議事項
 - (1) 今年度の「総合的な学習の時間」への地域人材活用の成果と課題、および、来年度のより良い活用に向けて
 - ①各主任が今年度の取組について成果と課題を発表
 - ②より良い活用に向けてグループに分かれて話し合い
 - ③グループで話し合われたことの発表
11. 会議録作成者 CSD 佐藤 彩乃
12. 議長の選出

議長の選出については、前回の会で決定していた通り、高井会長に川合教頭が依頼、全員異議なくこれを承認した。
13. 会議記録

司会の川合教頭より、委員総員 9 人中、7 人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

 - (1) 今年度の「総合的な学習の時間」への地域人材活用の成果と課題、および、来年度のより良い活用に向けて
 - ①各主任が今年度の取組について成果と課題を発表
ア 1 年学年主任野田教諭より次の説明があった。

10 月に民生委員の方々に学校に来ていただき、町ごとの活動について話を伺い、福祉や地域の抱える課題について学び、たくさんの人たちに見守られていることを知った。成果は、活動を通して、他人事だった福祉について身近なものとして捉えられるようになったこと。課題は、福祉に関する用語が難しかったり、緊張から質問ができなかったりした生徒がいたこと。レポートが完成したら届ける。

イ 2 年学年主任袴田教諭より次の説明があった。

6 月の職業講話では、運営委員会からの提案で有資格者の話を少人数のグループで聞くことができた。先週の職業体験では事業者の方から生徒たちの活動が良かったとお褒めの言葉をたくさんいただいた。課題は、職業講話で来てくださった方々の事業所で職場体験ができると、より深い学びに繋がったと思うが、事前の準備期間が短かったため実現できなかった。来年度以降も協力をお願いしたい。

ウ 3 年学年主任の鈴木教諭より次の説明があった。

11/21 は、市の出前講座を利用し、未来年表を作成しながら自分の将来について考えた。11/22 は、ふわっとさんとボランティアさんの協力のもと、親子 62 組にお集まりいただき赤ちゃんと触れ合う活動をした。課題は、駐車場の確保の難しさがあった。今後自作のおもちゃなどの提供が考えられるが、安全面での配慮が必要のため検討が必要。

エ 大樹学級主任の川口教諭より次の説明があった。

2・3 年生の 5 名が、「なないろカフェ」で 2 日間職業体験をした。清掃、商品並べ、レジ打ちを通して多くのことを学び有意義な体験になった。課題は、特性を知ってもらったり、地域での発見も期待できたりするので、今後の体験場所は学校区内で探すことである。また発達支援学級の生徒に向けて、卒業後の進路に関してのお話をしていただけると生徒たちの役に立つので、機会があったらお願いしたい。

②より良い活用に向けてグループに分かれて話し合い、委員から以下の意見が出た。

ア A 班から出された意見

・「1 年生福祉教育」での活用

家庭内での問題が発生したときに、近くにいる民生委員に相談できるいいきっかけになったかもしれない。事前準備の時間が少なかったのが課題である。

・「2 年生職業講話・体験」での活用

将来を見据える有意義な体験であった。今回の講師は、生徒が興味を持てる分野での選択ができたのでより深い理解につながったのではないか。社会で身近に起こっている出来事について、職業と結び付けて考えてみるのも学びになるのではないか。まだ将来に向けて漠然としている人もいると思うので、選択肢を幅広くした方がいいかもしれない。技術者・有資格者だけでなく、資格がなくても社会に貢献し、経験豊富な方の話をたくさん聞ける体験ができると良い。

・「3 年生パパママ体験」での活用

久しぶりの体験ではあったが今後継続したいテーマ。生命の大切さを学べるいい体験。準備段階から地域ボランティアが関わってもいいかもしれない。

・「大樹職場体験」での活用

学校区内での受け入れがない点が課題。農業分野には心当たりがあるので、体

験可能かもしれない。四季を通しての作業で自然とのふれあいや成長過程の観察、収穫体験で食べ物をいただくありがたさを感じられるのではないか。

イ B班から出された意見

- ・「1年生福祉教育」での活用

地域の民生委員との関わりは継続していきたい。事前に言葉や単語の理解は必要だと思われるので、準備としての授業があってもいいかもしれない。地域ごとの話し合いに自治会長と一緒に参加させてもらえるといい。

- ・「2年生職業講話・体験」での活用

今回は有資格者を集めたが、社会に貢献している方の中には中郡中学校の卒業生もたくさんいるので、その方々の話を聞くのは親近感があっていい。人材登録のようになると、お互いに準備が整った状態で進んでいくのではないか。

- ・「3年生パパママ体験」での活用

今後も継続していくといい。地域の保育園や協働センターの離乳食教室など募集をかけられる場所がある。今後の課題として、今は感染症対策で持ち込みが難しいがおもちゃ作りなどできるといい。

- ・「大樹職場体験」での活用

学校区内にそれぞれの特性に合った施設があるといいが、農業体験はどうか。全学年に対して、いろいろな面で関わる地域側も総合的な学習のテーマを意識することが必要である。

ウ オブザーバーからの意見

- ・11月は積志ふれあいコンサート、協働センターまつり、職場体験など中郡中学校の生徒と関わる機会が多く、職員としていい刺激を受けた。今後も協働センターとして、中学生との関係を増やしていきたい。(小池さん)

- ・生徒が主体性を持って学びや関心の引き出しに結び付けていけるといい。産業人材不足の課題があるので、職業体験の中で農業を取り入れ、手をかけて収穫する大変さから食べ物をいただくありがたさを学ぶことを検討していただきたい。(鈴木議員)

- ・学校運営協議会として、支援活動を行うだけでなくその後の見届け、学校からの意見を受けその観点から次に繋げていくということころまでを熟議している。地域の姿勢と、学校と地域とで作った総合的なカリキュラムで活動を取り入れられていることが素晴らしい。(教育総務課井島さん)

連絡事項

(1) 令和6年度学校評価アンケート項目

鈴木教務主任より説明。本会議で検討した学校評価アンケートを、12月に職員、生徒、保護者に向けて実施し、結果を次回第4回学校運営委員会において報告する。

(2) 全国学力学習状況調査の結果報告

鈴木教務主任より説明。今年度4月に3年生を対象に行われた全国学力学習状況調査の結果を9月に学校だよりで示しているが、本校は、全国、静岡県と比べて高い数値を記録している。学びに対する姿勢や知的な好奇心が強い生徒たちが多く、興味深く学習に取り組んでいるが、家庭学習の時間が短いと自覚している生徒も多い。ICT機器の有効活用については研修テーマに設定し推進に取り組んでいる。

(3) 令和8年9月以降の浜松市における「休日の部活動の地域移行」

高橋校長より説明。平日の部活動は今まで通り継続するが、休日は学校の教員が直接関わらず地域クラブの活動となる。現状だとその組織の確立が難しく、段階を経て、徐々に移行していくイメージ。指導者の確保や組織の構築など課題が多い。現在、本校にはいくつかの中学校地域クラブ（主に保護者などが立ち上げているクラブであり、教員は関わっていない）があり、当初はそのクラブに頼るしかないと思われるが、保護者中心の任意団体のため存続に不安定さがある。スポーツや文化の指導を地域の方から継続的かつ安定した形で実現できるようにするためにご協力をいただきたい。

(4) 令和7年度以降の資源物回収

高橋校長より説明。積志地区で行ってきた資源物回収は来年度以降廃止の方向となるだろう。今後、資源物回収は各学校の判断となり、実施の有無を含め、検討していくことになった。それに伴い、PTA組織内の地区委員に関して来年度からは募集しないことを保護者へ報告済み。

(5) 学校運営協議会の自己評価に向けて

川合教頭より説明。令和6年度の学校運営協議会の活動について振り返り、自己評価表に記入し1月31日（金）までに提出をお願いしたい。委員からの意見をまとめて、次回第4回学校運営協議会の中で完成させる。

(6) 第4回の開催予定日

第4回2月18日（火）14：00～16：00 ※13：10～13：55 授業参観自由参加